

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 西千葉教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼に職員間で支援内容の振り返りや話し合いが行われている ・業務の効率化や改善に向けた取り組みが行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな資格や経験を持つ職員が所属しており、朝礼・終礼をはじめとした定例会議のタイミングで支援内容の振り返りを実施しています。都度出る不足事項について多方面の視点から話し合いを行い、支援に反映しています。 ・HUGでのサービス提供記録は、実施するプログラムの目的と内容を明記する工夫をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、お子さんへの対応の仕方の統一が行えるように拠点での改善会を活用し事例検討、個別支援計画の内容について話し合う機会、都度挙がった支援における困り感について解消・認識共有ができる機会を設けます。 ・資質向上のための研修を形骸化させないため、プログラムや児童の取り組む日々のルーティン内に、研修で実施した内容を組み込むことを検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の発達段階や特性を把握し、配慮した支援ができています ・活動の目的やねらいを意識したプログラムを作成している ・研修や事業ポリシーで学んだことは、支援に活かしている ・学校等との情報共有（年間計画・行事予定等の交換・お子様の下校時刻の確認等）が適切に行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の年齢や特性を考慮しグループに分かれて難易度を直接するなど、お子様が自ら「できた！」と実感できる環境をつくれるよう工夫しています。 ・ドットジュニアにおける「5つの療育クラス」に基づき、毎月さまざまなねらいを持たせたプログラムを実施できるよう工夫しています。 ・事例検討をはじめとした研修や事業ポリシーの読み合わせなど、定期的な資質向上に関する内容についての接触機会を設けており、振り返り立ち返って実際の支援に活かせるよう工夫しています。 ・必要に応じて学校だよりをお預かりし、行事予定や都度の下校時間の把握が行えるよう工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてリクエストプログラムを実施します。 ・保護者の意向を確認の上、保育園／学校へ訪問し、連携を図ります。
<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容について、保護者と定期的に情報共有を行っている ・保護者の意見や要望を受け止め、個別支援計画や実際の支援に反映している ・家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている ・安全計画に沿って、研修が実施されている ・災害時に備えた避難訓練が実施されている ・けがや急病時の対応手順を把握し、実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは、送迎時・電話・LINE・HUGにて日次で気軽に相談していただけるよう各種媒体を整備し、相談が円滑に行われるよう工夫しています。 ・モニタリング時のみならず、電話連絡をはじめとした日々の連絡体制においても、意見や要望を受け止め、支援に反映できるよう努めています。 ・避難訓練は毎月1回、集団療育プログラムにおいて実施しており、災害に備えて定期的に行っています。 ・けが対応フローチャートに基づき、どの職員であってもすぐに報告・連絡・相談が行える体制を整えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、拠点で使用している対応フローチャート、ガイドライン、マニュアルの内容を保護者へも周知し、安心感向上につなげます。 ・職員のこれまでの経験値による支援のみならず、様々なバックグラウンドを持つ職員がそれぞれ発達の理解などを深められるよう、必要に応じて研修参加の機会を設けられるようにしていきます。

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
支援室内のスペースや経年劣化 ・壁の汚れ、剥がれ ・収納スペースの少なさ ・クールダウンスペースの確保	・相談室が、クールダウンスペースとして活用することが出来ていません。 ・教室内の壁の汚れ等、経年劣化に対する対策を検討することができていない状況です。	・引き続き、相談室を含めた教室環境の整理を実施します。児童の求めや職員の判断で、即時にクールダウンのできる場所として提供できるように環境を整えます。 ・安全面・衛生面の観点を含め、経年劣化に対する修繕や入替等の検討を随時行ってまいります。
日々の支援を行うための人数体制 ・送迎に出てしまう職員が多い場合は、より手厚い人員配置の工夫が必要であると感じる ・配慮が必要なお子様が複数名おり、お子様の特性に応じて人手が必要なタイミングがある	・その時々に応じた人員配置の工夫がシミュレーションしきれないことがあります。 ・職員の経験やスキルに頼った部分があり、人員体制の確立については発展途上です。	・お子様が安全に教室内でお過ごしいただけることが大前提として、送迎/支援室内の配置の工夫/随時個別対応が必要な場合の工夫など、様々な場面を想定した人員配置体制のシミュレーションを行い、安全管理に努めてまいります。
外部との連携/保護者への参画機会 ・学校・保育所等との連携において、送迎時のみの共有にとどまり、十分な情報や目標の共有は必要最低限の状況。 ・相談支援へ大まかな活動や様子は共有できてはいるものの、具体的な助言などはなかなか把握できていない。 ・ご自宅での様子と教室での様子の違いや、お友達との関わり方・集団活動への参加などを保護者様もより知る機会も作っても良いと感じる。	・お子様の成長に伴い、学校/園/相談支援事業所との密な連携が必要になってきたケースが増えてきたものの、実施機会が多くなかったことで、必要最低限でのやり取りにとどまっています。 ・保護者様に来所いただいて様子を見ていただく機会はなかなか設けてこられず、送迎時の申し送りやモニタリングの際のご共有にとどまっています。	・LINEやHUGを活用の上、全体で一斉送信する連絡時に「気軽にご相談ください」のような一文を添え、連絡しやすい体制を整え、事業所での取り組みを知りたいと思っていただけただけにすぐに表出していただける体制を作っています。 ・必要に応じて、保護者様へご相談・ご合意いただいたうえで学校/園への見学やケース会議等を実施し、お子様を取り巻く社会資源において統一した支援が行えるように努めてまいります。